

商品市況展望

平成 25 年 9 月 22 日記

◆米 FOMC が資産購入縮小見送り、金利上昇や財政引き締め懸念 9 月 19 日 ロイター

[ワシントン 18 日 ロイター] - 米連邦準備理事会 (FRB) は 18 日、米連邦公開市場委員会 (FOMC) 後に発表した声明で、**月額 850 億ドルの資産買い入れを当面継続する方針を表明した**。過去数カ月間の借り入れコスト上昇によって景気が圧迫される可能性があるとの懸念を示した。

買い入れ資産の内訳は従来どおり米国債が 450 億ドル、モーゲージ担保証券 (MSB) が 400 億ドル。**市場では今回、資産買い入れ額の縮小が決定されるとみられていただけに、予想外の結果となった。**

FRB は、財政引き締めや住宅ローン金利の上昇による景気への影響を理由に、株価や債券相場にはほぼ完全に織り込まれていた資産買い入れの縮小を見送った。

声明では、過去数カ月間に見られた金融状況のひっ迫が続いた場合、経済や労働市場の改善ペースが鈍化する可能性があるとしている。

バーナンキ米連邦準備理事会 (FRB) 議長は FOMC 後の記者会見で、買い入れ規模縮小について「あらかじめ決められた日程はない。このことは強調しておきたい」とし、「経済指標によりわれわれの基本見通しが確認され、われわれがその見通しに対する確信を深めれば、年内に措置を講じる可能性もある」と述べた。

発表を受けて米国株式相場は上昇し、S&P 総合 500 種とダウ工業株 30 種は最高値を更新。ドルは対ユーロで 7 カ月ぶり安値をつけ、債券市場では米国債価格が急上昇した。

チャプデレイン・フォーリン・エクステンジのマネジングディレクター、ダグラス・ボスウィック氏は「経済は安定化しているが、成長はしていない」と指摘し、「FRB は常に、経済指標が緩和縮小時期の決め手になると述べてきたが、過去数カ月に発表された指標は好ましくなかった」との見方を示した。米債券運用会社パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー (PIMCO) のモハメド・エラリアン共同最高投資責任者 (CIO) は、「FRB は経済が全般的に停滞していることを引き続き、かなり懸念しており、時期尚早な引き締めによるリスクより、緩和策を過度に長く維持することのリスクをとることを選んだ」と述べた。

今回の FOMC で緩和縮小を見送りを決定した理由として、FRB は財政引き締めと住宅ローン金利の上昇を指摘。声明は「経済と労働市場の見通しに対する下方リスクは昨秋以降、全体として後退したと考える」としながらも、「過去数カ月に金融状況の引き締めが見受けられ、継続すれば経済および雇用市場の改善ペースを減速させる可能性がある」とした。

一方、連邦政府による増税や歳出削減の中でも経済が引き続き前進しているとの認識を示し、「連邦政府の緊縮財政の影響を踏まえると、1 年前に資産買い入れを開始した以降の経済活動、雇用市場の改善は、広範な経済のすう勢が力強さを増していることと整合すると考える」と表明。

その上で「資産買い入れペースを調整する前に、この進展が持続するとのさらなる証拠を見極めることを決定した」とし、**当局者が現在も買い入れ縮小時期の検討を続けていることが浮き彫りになった。**

バーナンキ議長は 6 月の FOMC 後の記者会見で、年内に資産買い入れの規模縮小に着手し、2014 年半

ばには買い入れを停止することが適切となるとの考えを表明。買い入れを停止するころには、失業率は7%程度に低下しているとの見方を示した。

この日の記者会見では、失業率7%との水準は、政策担当者が買い入れ停止の時期を模索するにあたり目標とする「特別の意味を持つ数字」ではないとの立場を示し、「年内に（緩和縮小に）着手することもできる。ただ着手したとしても、その後の措置は、経済の継続的な進展次第となる」とし、緩和縮小に関して「あらかじめ決められた日程はないが、6月に示した基本的な枠組みは維持している」と述べた。カンザスシティ地区連銀のジョージ総裁は、低金利政策によるバブル形成のリスクを懸念して今回も反対票を投じた。

同時に公表された最新の経済見通しでは、2013年の成長率予想（中間予想値）が2.0–2.3%と、6月時点の2.3–2.6%から引き下げられた。14年については6月の予想が3.0–3.5%だったのに対し、今回は2.9–3.1%と、さらに大幅な下方修正となった。

フェデラルファンド（FF）金利の最初の引き上げに適切な時期は政策担当者17人中12人が2015年との見方を示した。ただ、FRBが利上げを検討する目安としている6.5%の基準に失業率が達する時期は2014年と予想されている。

この日のFOMC声明では、少なくとも失業率が6.5%を上回る水準にとどまるとともに、向こう1–2年のインフレ見通しが2.5%を超えず、長期インフレ期待が引き続き十分抑制されている限り、FF金利を異例の低水準に維持する方針をあらためて表明した。

まさかの”量的緩和縮小の見送り”で、NYダウは急騰。商品市場でも金相場が一気に切り返したわけだ。来年早々に退任するバーナンキ議長だが、次の議長もサマーズが辞退するなど簡単に決まらない。このカンフル剤を打つのを辞めれば、大きく市場が急落するのはわかっているので、誰もがその引き金は引く任は避けたいのだろう。

ともかくこれで、暴落は先送りでもまた急騰かと思いきや、週末はまた真逆の見方が出て株も金も急落している。まったく、わかりづらい相場である。さてもう一日分でどう動く？

NY 株式概況 続落 早期 QE 縮小開始への警戒 2013/09/21 (土) 05:49

NY 株式 20 日 (NY 時間 16:26)

ダウ平均 15451.09 (-185.46 -1.19%)

S&P500 1709.92 (-12.42 -0.72%)

ナスダック 3774.73 (-14.66 -0.39%)

CME 日経平均先物 14745 (大証終比: +65 +0.44%)

20日のNY株式市場、ダウ平均は続落。きょうも利益確定売りが優勢となった。ブロード・セントルイス連銀総裁が、指標次第では10月のFOMCでのQE縮小に可能性を示すなど、早期のQE縮小開始への警戒感が高まっている。

ダウ採用銘柄は27銘柄が下落。キャタピラーやマイクロソフト、ホームデポが下落。一方、ファイザー、JPモルガン、コカコーラが上昇。

その他、商品市場で金が急落しており、バリックゴールドなど産金株の下げが目立っている。

〔貴金属〕

○東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月17日	¥4,196	-32	¥4,195	-34
9月18日	¥4,168	-28	¥4,165	-30
9月19日	¥4,322	154	¥4,321	156
9月20日	¥4,358	36	¥4,357	36

金相場は、先週号においては『来週に更に大きく崩れるようなら崩壊する相場であろうが、現状ではぎりぎり調整の範囲内。ここ2週間の動きは重要だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、18日までは6営業日連続安で4,131円(9/18)までの下落となったものの、FOMCでのまさかの金融緩和縮小見送りで急反騰。週末には高値で4,403円まで上昇。

しかしその後の夜間取引では、すでに100円あまりの急落を演じるなど、非常に先が読みづらい荒い展開となっている。

団子天井のようなチャートが一気に下抜けとなり、結果として4,532円(9/4)→4,131円(9/18)まで401円の下落を演じた相場だが、そこからは一気に272円の急反騰となり、更にまた152円の急落を演じている状態である。

先週号のコメントで『現状ではぎりぎり調整の範囲内』としたわけだが、…中略…

非常に判断が難しい相場であるが、結論から先に言えば、今週の安値4,131円を切らないならば、相場はまた上だろう。だが切ったらば相場は大きく崩れるだろうと言うのが、当方の見方である。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥3,761	6月28日	¥4,358
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥3,745	6月28日	¥4,359
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥3,751	6月28日	¥4,364
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	¥3,749	6月28日	¥4,358
2014年6月	¥4,031	6月26日	¥4,531	9月4日	¥3,750	6月28日	¥4,356
2014年8月	¥4,424	8月28日	¥4,532	9月4日	¥4,131	9月18日	¥4,357

○NY金日足
…削除済み…

9/20のNY市場では、前日比36.8ドル安の1332.5ドルでの終了。下げた材料は、またQE3縮小観測が高まったためである。

チャートでは、直近の高値は 1434 ドル (8/28) →1302.7 ドル (9/16) までは 131.3 ドル幅の下落の後 (夜間取引では 1300 ドル割れもあったと記憶しているが、本取引では出ていないのだろう)、1370 ドル辺りまで戻して、また週末に下げたわけだ。

このところコメントしてきたのは、『**ただし下げても 1300 ドルを割り込まないと、完全な売り相場への転換とはならない。調整を終えれば、再び上昇を開始して 1434 ドルを突破し、次の目標値である 1487.2 ドルを目指すシナリオはまだ残っている**』という事であり、**この乱高下の行き着く先が 1300 ドルを割るのか？ 1400 ドルに乗せるのか？は大きな問題であろう**と思っている。

CFTC 発表の 9/17 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 9/20 現在での ETF 残高は、…中略…

なおゴールドマン・サックスは、年内の金相場見通しについてニュートラルを維持。ただし、2014 年に向けては、金相場が再び下落基調を強めると予想し、**年間の金相場見通しについては 1 オンス=1050 ドルで据え置いた。**

また、インド財務省で経済問題を担当するアルビンド・マヤラム氏は 2013~14 財政年度 (13 年 4 月~14 年 3 月) の同国金輸入量が、政府の抑制策を背景に、前年度比 11%減の 750 トンにとどまるとの見通しを示した。

さてこのゴールドマン・サックスのいう 1050 ドルを為、替を 100 円として計算するならば、
○ $1050 \text{ ドル} \times 100 \text{ 円} \div 31.1035 = 3,375 \text{ 円}$ となる。

これが当たるのかどうかはわからぬが、1300 ドルを割り込むようならその辺りまで下げてもおかしくはないのだろう。

結論として当方の相場観は、まさかの FOMC での緩和縮小見送りでの乱高下であるが、ポイントは 1300 ドルを維持するかどうかであろう。割れたら金の買い目はなくなるし、割れないのならばまた大きな戻りがあるのだろうと見る。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月17日	¥4,610	-40	¥4,624	-37
9月18日	¥4,553	-57	¥4,582	-42
9月19日	¥4,670	117	¥4,689	107
9月20日	¥4,682	12	¥4,701	12

プラチナ相場は、先週号においては『目先天井の確認から調整局面入りしているのは確実だが、大暴落に繋がるかどうかは株式市場の動向次第。現在はまだ調整の許容範囲である。ここ2週間程度の動きに注目しておくべきだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、4日連続安で4,540円(9/18)まで下落した相場が、FOMCでの緩和縮小見送りで19日に急反騰。週末には高値で4,762円(9/20)まで上昇した。

しかしそこからは軟化し、早期緩和縮小の観測が出た夜間取引では、安値で4,606円までの下落となっている。

4,956円(9/4)→4,540円(9/18)までの下落幅は416円、そこから222円戻し、156円下げている状況である。

元々5,000円は大きな壁であるコメントしてきており、また下落も『半値押し4,540円どころは許容範囲内である』と先週号でコメントした通りのところまで下げての急反騰であり、チャートも一目均衡表の雲で支えられた展開だ。まさに予測通りの動きであるが、週末の夜間取引で急落しているだけに、次にこの4,540円を割り込むか？ 維持出来るか？は重要なポイントとなるだろう。もちろん割れたら、相場は崩壊すると思っている。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,682
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,122	6月27日	¥4,685
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,125	6月27日	¥4,684
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,109	6月27日	¥4,685
2014年6月	¥4,284	6月26日	¥4,948	9月4日	¥4,125	6月27日	¥4,691
2014年8月	¥4,810	8月28日	¥4,956	9月4日	¥4,540	9月18日	¥4,701

○プラチナ-金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,701円(プラチナ) - 4,357円(金) = 344円。チャートでは、底抜けの状態となった。…中略…

結論として当方の相場観は、ピタリ半値押し4,540円で止まった相場であるが、この後にこれを割り込むか、それとも維持するかで相場は180度変わると思われる。ここからが勝負時であろう。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	11月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
9月17日	¥25,000	0	¥25,350	-250
9月18日	¥24,650	-350	¥25,280	-70
9月19日	¥24,630	-20	¥25,120	-160
9月20日	¥25,050	420	¥25,270	150

まずはコーンから…

先週号においては『シカゴ相場はまた底抜けした。東京はまだ確りしているが、買い目がある相場とは思えない。少なくとも2番底を探りに行くのが先であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、25,060円(9/19)まで下落。穀物相場にFOMCでの緩和縮小見送りは、何の影響も与えなかった。

9月の米農務省報告では、生産高を13億4,300万Bu、在庫率を14.6%としており、これは昨年の5.9%と比べれば段違いの緩和水準である。

9/1付の日経新聞紙上でも、全農などが「とうもろこし下落を反映し、配合飼料を1年半ぶりに値下げ」とのニュースが出ており、つまりは現在の需給はそういう事なのだ。買い目がある相場とは、到底思えない。

一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥28,910	5月30日	¥23,500	8月19日	¥25,050
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,600	6月3日	¥23,830	8月12日	¥24,900
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	¥24,030	8月12日	¥25,490
2014年5月	¥26,550	4月17日	¥28,970	6月3日	¥24,030	8月12日	¥25,030
2014年7月	¥26,600	6月17日	¥28,410	6月21日	¥23,990	8月13日	¥25,230
2014年9月	¥25,190	8月16日	¥26,600	8月27日	¥24,990	8月19日	¥25,270

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末9/20のシカゴ市場は、12月限で前日比8.50セント安の451.00セント。旧穀の9月限は納会し、新穀だけの相場に移行である。

なおCFTC発表の9/17現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、全く買い目のある相場とは思えない。今後のハーベスト・プレッシャーで新安値を更新しても驚かぬ。来年の天候相場までは、戻り売り一貫の相場であろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月17日	¥63,080	-320	¥53,500	-1010
9月18日	¥61,150	-1930	¥53,440	-60
9月19日	¥58,020	-3130	¥53,580	140
9月20日	¥56,900	-1120	¥53,380	-200

続いて一般大豆です…

先週号においては『コーンとは在庫率が全く違う。大豆は押し目買い方針の継続であり、コーン売り・大豆買いのポジションはまだ有効だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、安値では 53,120 円 (9/18) まで下落であり、高値からは 2,000 円ほど値位置を切り下げてのもみ合いとなった。

9月の米農務省報告では、生産高 31 億 4,900 万 Bu、在庫率 4.8%と昨年の 4.0%に接近する需給逼迫予測であるが、その割には相場の頭が重くなってきた。米国の在庫はきつくても、南米の豊作で世界在庫は 26%以上の在庫率があるという事が影響しているのかもしれない。

…中略…

いずれにせよ、ファンダメンタルズから見て積極的に売る相場ではないと思われるが、かと言って買うのも穀物相場全体の流れから見てつまらない、という事になるのだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥68,750	7月10日	¥46,920	10月16日	¥56,900
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥59,950	9月13日	¥48,450	1月9日	¥56,700
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥57,300	9月13日	¥48,960	8月8日	¥54,210
2014年4月	¥50,910	4月17日	¥60,000	9月4日	¥49,850	5月2日	¥56,300
2014年6月	¥51,760	6月17日	¥56,340	7月10日	¥49,130	8月8日	¥53,660
2014年8月	¥52,600	8月16日	¥55,270	9月4日	¥51,800	8月21日	¥53,380

○東京大豆10月限一代足

…削除済み…

今週は視点を変えて、シカゴ大豆のチャートではなく、東京市場期近10月限のチャートをアップしてみた。

夏場に 68,750 円 (7/10) という高値を出し、同時期の先物価格 56,340 円よりも 12,410 円も逆ザヤに買われた相場が、一度 12,000 円の暴落をし、9,000 円戻して、再び暴落している状況である。

…中略…

正直、貴金属なんかよりも票読みが出来る相場の方が簡単で面白いのだが、今の出来高やシステムを勘案した場合には、個人には手出しできないのでつまらん。

なお週末 9/20 のシカゴ市場は、11 月限では 24.25 セント安の 1315.25 セント。9 月限が納会して、新穀だけのわかりやすい相場となっている。

ちなみにシカゴのチャートでは、新穀が下ザヤだったために底抜けしそうな姿となっている。

また CFTC 発表の 9/17 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、だいぶ相場の頭が重くなってきているため、また調整局面入りとなったのだろう。ただしコーン売り・大豆買いの作戦は理にかなっており、突っ込み場面は買い拾っても良いだろう。

[ゴム]

○東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
9月17日	257.7	0.6	273.4	1.4
9月18日	260.9	3.2	277.8	4.4
9月19日	265.5	4.6	285.3	7.5
9月20日	266.5	1.0	283.9	-1.4

先週号においては『予想通りに目標値達成からの調整局面入りとなった。今後の展開も、ゴム自体の需給云々ではなく、一番はFOMCの動向という事になるだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、268.4円(9/17)までの安値を出すのが、そこからは急反騰。FOMCでの資産買い入れ縮小の見送りもあって19日は急騰し、287.0円まで上昇するものの、290円台奪還はならずで再び小反落して終了である。

チャートはまだ、調整局面のままである。結論から先に言えば、当方は290.3円(9/9)で天井を打っているとの見方であり、今週の高値は2番天井であろうとの見方である。

ストップロスをこれに置き280円台は売り、268円を割れば追撃、という戦略を立てている。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	279.5	3月26日	297.7	5月13日	221.9	6月25日	266.5
2013年10月	253.7	4月24日	299.0	5月13日	222.3	6月25日	269.5
2013年11月	267.7	5月28日	279.0	9月9日	223.9	6月25日	272.5
2013年12月	231.0	6月25日	282.5	9月9日	225.5	6月25日	275.3
2014年1月	257.0	7月26日	287.1	9月9日	238.7	7月31日	279.7
2014年2月	278.8	8月27日	290.3	9月9日	268.2	8月30日	283.9

当先のサヤは、9月限266.5円～2月限283.9円と17.4円の逆ザヤ。順ザヤ幅は更に拡大した。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、8/31現在で1,147トン減の5,244トン。12旬連続の減少である。さすがに5,000トン台の在庫は少ないか。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、…中略…

結論として当方の相場観は、290.3円にストップロスを置いての売り方針である。産地のゴム供給に不安は無いため、戻り天井は打っているとの判断である。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週号においては『調整局面入りしているのは間違いないが、完全に相場が天井を打って下げトレンドに変化したかどうかの判断は付かない。相場が押し目買いのままなのか？下げトレンドに変化したのか？の判断は、来週の FOMC 明けの相場で見極めたい』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油はもみ合い状態。だが週末 9/20 は、前日比 1.72 ドル安の 104.67 ドルと若干軟化して終了である。

直近の高値 112.24 ドル (8/28) まで上昇の後は、…中略…

チャートでは週末の下落で一目均衡表の雲の中に突入であり、104.21 ドルを割り込むような W トップ型のチャートとなる。…中略…

また 9/17 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	9 月限(当限)	前日比	2 月限(先限)	前日比
9 月 17 日	¥68,520	-730	¥63,810	-1350
9 月 18 日	¥67,990	-530	¥63,350	-460
9 月 19 日	¥68,300	310	¥64,350	1000
9 月 20 日	¥68,150	-150	¥63,950	-390

東京原油は、62,920 円 (9/18) まで下落の後、FOMC 明けに急反発。ただし戻りはまた売られている。

チャートではまだ雲の上での推移であり…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 9 月	¥62,370	4 月 1 日	¥69,800	9 月 4 日	¥57,370	4 月 18 日	¥68,150
2013 年 10 月	¥59,500	5 月 1 日	¥68,530	9 月 9 日	¥57,510	5 月 2 日	¥65,730
2013 年 11 月	¥60,370	6 月 3 日	¥67,810	9 月 9 日	¥58,040	6 月 14 日	¥65,110
2013 年 12 月	¥60,580	7 月 1 日	¥67,170	9 月 4 日	¥60,000	8 月 9 日	¥64,660
2014 年 1 月	¥62,420	8 月 1 日	¥66,750	8 月 28 日	¥59,720	8 月 9 日	¥64,290
2014 年 2 月	¥63,890	9 月 2 日	¥66,380	9 月 6 日	¥62,920	9 月 18 日	¥63,950

結論として当方の相場観は、66,750 円で目先天井打ち、現在は調整局面入りとなっているのはほぼ確実だろうが、積極的に売りで取れる相場とも思えない。しばし休憩で、次の展開を模索するのが良いだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
9月17日	¥78,120	-1140	¥75,480	-1380
9月18日	¥77,630	-490	¥75,190	-290
9月19日	¥78,260	630	¥76,550	1360
9月20日	¥77,780	-480	¥76,320	-230

続いてガソリンです…

先週号においては『チャートはWトップで悪化したものの、さほどの下げとはなっていない。先物はスポット価格と比較すれば相変わらず割安であり、チャートは悪いが天井を打ったとはまだ断言出来ない。FOMC明けの相場に注目するのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、Wトップ形成後の下げが続いて74,690円(9/18)まで下落するものの、FOMC明けに急反騰。77,000円台まで戻したが、その後はまた軟化しての終了である。

78,870円(8/28) → 74,690円(9/18) までの下げ幅は4,180円。4,000円ほどの上下はガソリン相場の1サイクルであり、大きく動く場合はこの2~3倍の8,000円、12,000円と動くのがいつものパターンである。

…中略…

Wトップからの調整局面入りは确实だが、さて売って取れるのだろうか？というのが正直なところである。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年10月	¥74,630	3月26日	¥80,410	9月9日	¥68,150	4月18日	¥77,780
2013年11月	¥72,990	4月26日	¥79,060	9月6日	¥68,030	5月2日	¥77,000
2013年12月	¥71,760	5月27日	¥77,880	9月6日	¥69,450	6月14日	¥76,010
2014年1月	¥70,660	6月26日	¥77,500	8月28日	¥69,520	6月27日	¥75,360
2014年2月	¥75,050	7月26日	¥77,660	8月28日	¥71,020	8月9日	¥74,910
2014年3月	¥76,610	8月26日	¥78,870	8月28日	¥74,690	9月18日	¥76,320

9/20 現在の業者間転売価格は、…中略…

9/14 現在のガソリン在庫は、前週比1.1万kl増の209.9万kl。前年同期比では17.3万kl少ない水準。ほぼ適正水準の在庫である。製油所稼働率が87.7%と高水準の中だが、在庫はそんなに増加しておらず、ガソリン生産は減産となっている模様だ。

結論として当方の相場観は、Wトップ形成からの調整局面入りしているのは确实だが、スポット価格からみれば割安な状態の先物をどこまで叩けるのかにも疑問だ。しばしの間は、休むも相場と静観するのが正解であろう。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
9月17日	¥78,710	-1270	¥78,300	-1650
9月18日	¥78,420	-290	¥77,880	-420
9月19日	¥79,200	780	¥78,850	970
9月20日	¥78,660	-540	¥78,350	-500

最後に灯油です…

先週号においては『他商品に連れて調整安を演じた相場であるが、まだ上昇トレンドは崩れていない。よって押し目買い方針は維持であり、突っ込みがあれば喜んで買う相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、77,490円(9/19)までの安値を記録するものの、そこからは急反騰。週末までには79,330円まで2,000円弱の上昇を見せるが、そこからはまた軟化しての終了である。

チャートではまだ雲の上での推移であり、季節的にも暴落はないとの見方を基本としているが、さすがに直近の高値81,010円(9/9)からすでに3,500円も下げているわけで、調整局面入りしているのは確実だろう。

…中略…

買いたくもなし、売りたいくもなし、というのが正直なところであり、原油価格の不透明さと合せ、しばらくは様子見というスタンスがベターなのかもしれない。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥80,300	9月9日	¥69,000	4月18日	¥78,660
2013年11月	¥75,350	4月26日	¥80,600	9月9日	¥69,850	5月2日	¥78,760
2013年12月	¥74,610	5月27日	¥81,200	9月9日	¥71,580	6月14日	¥79,150
2014年1月	¥73,900	6月26日	¥81,300	9月9日	¥72,650	6月27日	¥79,100
2014年2月	¥78,000	7月26日	¥81,270	9月9日	¥74,130	8月9日	¥78,950
2014年3月	¥79,130	8月26日	¥81,010	9月9日	¥77,440	9月19日	¥78,350

9/20現在の業者間転売価格は、80,750円(税抜き)と前週比750円安。不需求期のスポット相場に指標性はないが、相場は下げ始めている。

9/14現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、まさかのFOMC明けの相場は急反騰とはなったものの、後が続かない展開では強気一辺倒では臨みづらい。相場観はかなりのトーンダウンで、中立に戻さざるを得ない。休むも相場なり。

[為替・株式]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

FOMC 発表前の 8/18 には量的緩和縮小を見込んで 87 円台突入の円高となったが、翌 19 日はまさかの縮小見送りで円安へ。

当方は円安トレンドの継続だと思っているのだが、95 円～100 円の相場というのは居心地が良い水準なのかもしれない。

なお来週の主な予定は、…中略… などである。

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

ドル/円相場での円安の進行は止まっているわけだが、**対ユーロでは円安がなお進行中**である。ドル/円で円安のピークだったのは 5/22 の 103 円台であるが、その時点でのユーロ/円の 133 円台を抜け、今は 135 円に接近している。

そろそろまた、ドイツ辺りが批判を始めるんじゃないか？

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

対ドル相場で円安は止まっている、対ユーロ相場で円安が進んでいるとなれば、当然の如くユーロ/ドル相場ではドルが下落しているわけだ。特に 18 日には、一気にドルが売られたわけである。

…中略…

○日経 225 日足

…削除済み…

日経平均相場は、東京オリンピックの開催決定を受けて上昇。一目均衡表の雲の上に抜けており、上昇トレンドが発生している。

だがその後は FOMC 前の警戒感と、9 月配当落ちを前にして足踏み状態だ。配当落ち後に下がった後は、10 月相場でまた大きく上がり始めると思っている当方だが、さて？

…中略…

○NY ダウ日足

…削除済み…

週末 9/20 の NY ダウは、前日比 185 ドル安の急落。15,709 ドルで目先天井を打ったぽいが、下げたとは言えまだ 15,450 ドル台であり、あと 250 ドルほどは調整の範囲内だろう。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com